

東京パラリンピックの開幕まで24日で半年となる。パラアスリートは新型コロナウイルス感染症で重症化する危険性があり、活動を制約されている。国際大会が中止されたり、練習拠点の変更を余儀なくされたり北海道関係のアスリートも影響を受けるが、気持ちはなえていない。(1面参照)

車いすラグビー池崎

連係に自信

2016年リオデジャネイロ大会銅メダルの車いすラグビーは初の頂点を目指す。前哨戦となるはずだった3月のジャパンパラ大会はリオ優勝のオーストラリア、米国など海外勢を招くことができなかった。エース池崎大輔(三菱商事、岩高等養護出)は「納得のいくところまでは強化できていない」と話す。

重度障害者のために考案された競技には新型コロナウイルス感染による重症化が懸念される選手も多い。合宿は池崎ら首都圏に住む選手が中心となり連係プレーの精度を上げられな

東京パラまで半年

道産子選手 折れない心

いが、池崎は「リオからの仲間も多く、共有してきた時間は果てしない」と自信を見せる。

水泳の小野智華子(視覚障害S11)「あいおいニッセイ同和損保、道高等盲出」は昨年春、感染リスクが低く、落ち着いた環境で競技に打ち込むために練習拠点を東京から地元の帯広市に移した。「東京は電車のつり革、エスカレーターの手すりなど危険がいっぱい。帯広は精神的に楽」

元国体選手でオーストラリア在住の女性コーチとメールで練習メニューをやりとりするなどして、手と腕のひとかきが大きいフォームを身につけつつある。帯広に移る前から指導を受けているため、元々メールなどを介しており新型コロナウイルスの影響はほとんどない。

過去2大会は100メートル背泳ぎとともに8位。5月に東京パラの代表選考会に挑む。

水泳宮崎

雪辱を誓う

札幌市が拠点の水泳の宮崎哲(知的障害S14)「あいおい

ニッセイ同和損保、札高等養護出」は自閉症を抱える。母義恵さんによると「想定外の事態に対応するのが苦手で、パラリンピックの延期決定でも難しい時期もあった」という。

29歳で迎える2度目のパラリンピックを大成と見据える。リオ大会は200メートル自由形で予選敗退。「目標ははつきりしている」と雪辱を誓う。

男女4人がこぎ手を務めるボート「混合かし付きフォア」は東京パラの延期が決まってから女子選手が1人、競技を去った。パラボートは競技人口が少ない。チームは選手発掘から進めて今月、1人が加入した。

東京パラの出場権は6月の世界最終予選(イタリア)で2位以内に与えられる。コックス(舵手)で、競技経験の浅いこぎ手のコーチも兼ねる健常者の立田寛之(埼玉・戸田中央総合病院ローイングクラブ、石狩翔陽高出)は「このチームでやり切りたい。東京パラでパラボートの存在を発信する」と決めている。

(半藤倫明、野口洸)